

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079800233
法人名	有限会社 あきの
事業所名	グループホーム ひなたの家
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町弁城2482-1 (電話) 0947-22-0535

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年7月7日	評価確定日	平成20年8月18日

【情報提供票より】(平成20年6月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋瓦葺造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費)5,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(6月29日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	8名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 86.94歳	最低	78歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福智町立方城診療所
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福智山を背景に広々とした田園の中に位置し、広い敷地を有する2ユニットの木造平屋建てのグループホームである。入居者の居室はグループホームの名前の「ひなたの家」と同様に全部南向きの好立地条件を備え、明るく清潔な空間となっている。設立3年が経過し、職員も固定化し馴染みの関係が出来ている。管理者は培った介護経験から、グループホームに理想と熱意を持たれている。職員は個々の入居者の暮らし大切に考え、折々の行事やレクリエーションの企画・実施に力を入れている。入居者は穏やかな環境でゆったりと暮らされ、自然な笑顔が印象的なグループホームであった。今後は更に地域の福祉・コミュニティ拠点として期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の思いや意向をわかり合える為に、昨年提案があった「センター方式」を取り入れ、個々の入居者の個性を把握されていた。ケアマネジャーを中心に介護保険について勉強会も実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は頻繁に会議を開き、外部評価の意義を共有している。評価項目を各自分担し身近な事柄として問題意識を持ち評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域の方に、当ホームの経営内容や役割を理解していただくために運営推進会議の議題を考えている。議題としては「入居者がどんな生活をされているのか、グループホームとして快適で安全な暮らしを支えるためにどのように取り組んでいるのか」などを報告している。地域に密着したグループホームでありたいとホーム行事に招待をするなど地域密着型サービスの役割を果たそうと取り組んでいる。地域代表の委員からも防犯について提案事項があり、提案に関しては前向きに受けとめ運営に反映できるように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	自由に意見を言っていたけように、意見箱を用意しているが、ほとんど利用されていない。出来るだけ家族との接点を多く持つように毎月の支払い毎に直接、家族がホームに訪れるシステムとなっている。家族とのコミュニケーションを図り、家族の思いや意向をつかめるように努力されている。毎月の家族への便りは入居者の生活状況を詳しく報告し、入居者が生き生きと過ごしている日常のスナップ写真も同封され、家族にとっては安心感が高いホームとして好評である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連事項:外部3)
	地域や公民館の行事はお誘いがあり、積極的に参加している。自治会への加入もお願いしているところである。また、地域との連携を高めるためにホームの行事案内を計画している。今後、入居者と散歩しながら地域のゴミ拾い等の活動もしていきたいと考えている。田園地帯で人の往来も少ないため、緊急時のホームの応援など地域との交流を図るように努めている。今後は、当ホームに24時間職員がいることを活かし、更に地域の中核となられることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割として、理念の中に「豊かな自然環境の中で地域との交流を行い」を掲げ、地域との関係性を示し、地域の中で当グループホームがモットーとしている、「目配り、気配り、心配り」を重視し、入居者それぞれのその人らしさを活かすために、管理者・職員全員で理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝礼時に唱和し、その意味するものを共有している。採用時には理念を説明し、理念に基づいて、日々のケアやサービスをどのように行っているかを重点的に説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域や公民館の行事はお誘いがあり、積極的に参加している。自治会への加入もお願いしているところである。また、地域との連携を高めるためにホームの行事案内を計画している。今後、入居者と散歩しながら地域のゴミ拾い等の活動もしていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は頻繁に会議を開き、外部評価の意義を共有している。評価項目を各自分担し身近な事柄として問題意識を持ち評価に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に、当ホームの経営内容や役割を理解していただくために運営推進会議の議題を考えている。議題としては「入居者がどんな生活をされているのか、グループホームとして快適で安全な暮らしを支えるためにどのように取り組んでいるのか」などを報告している。地域に密着したグループホームでありたいとホーム行事に招待をするなど地域密着型サービスの役割を果たそうと取り組んでいる。地域代表の委員からも防犯について提案事項があり、提案に関しては前向きに受けとめ運営に反映できるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者がこの地区の住民として、安心して暮らせるように町の担当窓口とは積極的に行き来しており、情報交換などを行っている。当地域にはグループホームが数ヶ所あり、町の担当者より、グループホームの連絡会をするように提案があった。この会を通じて、お互いの情報交換・研鑽が出来ることが期待される。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、家族からの要望があり、学ぶ機会があった。関係者と共に話し合いを持ち、対応できるよう取り組んでいる。また必要時には即刻対応できる体制を整えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、便りに日々の暮らしや外出先での様子をスナップ写真で報告している。利用料の支払いで訪れる家族に入居者の状況を詳細に報告している。職員の異動については特に報告は行ってはいないが、尋ねられた時は報告している。		家族としても、馴染みの職員には大きな信頼を寄せている。ホーム側から人事の情報提供をしていただくと、更に安心出来て、信頼関係も高まっていくと期待される。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の玄関の下駄箱の上に「意見箱」を置き、意見・不満・苦情を出していただき、ホームの運営に反映していくように努めている。また、面会時にも何でも話していただけるように家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近年は職員の固定化により、安定した運営となっている。入居者の馴染みの職員の異動や離職については、出来るだけ押さえるように取り組んでいる。交代する場合には、その入居者に説明するなど、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用にあたっては、出来るだけ採用対象から排除しないように考慮している。職員の能力を発揮できるように職員の率直な意見の吸い上げを行っている。行事の企画書も交代に作成してもらい、各自の能力が発揮できるように、意欲的に取り組めるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	言葉使いや記録内容に、家族が聞いたり見たら悲しくなるような事があった際には、直ちに会議の議題として話し合うようにしており、入居者のプライバシーを尊重した対応が出来るように努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	管理者や職員を段階に応じて育成する為の計画は立てていない。法人内外の研修を受ける機会を確保していない。働きながらのトレーニングについて特にすすめていない。ケアマネジャーよりグループホームとしての勉強会は行っている。		認知症のプロの介護者が、仕事に自覚と誇りを持つ事は、職場の士気高揚となる。動機づけとして意図的な研修が計画・実行されることが期待される。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	書類手続きやホームでの活動について、同業者と交流を図っている。町内の同グループホームの連絡会が発足することで、更なる情報交換や切磋琢磨する機会が出来ることを期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	サービス開始前に本人の生活ぶりや生活を本人や家族からよく伺っている。その上で本人の意向にそってグループホームの雰囲気や暮らしに徐々に慣れていただくように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は入居者を人生の先輩として対応している。人生の先輩である入居者の培ってきた経験(礼儀作法や畑仕事の知恵等)を機会あるごとに学び共に暮らしを支えていけるように努めている。特に個別外出や外食は個人的なふれあいとなり、喜怒哀楽を共に過ごす良い機会となっている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式のアセスメントツールを用い、一人ひとりの希望や意向を把握している。趣味・嗜好等では行事の会食の際に希望の方にビール等を付けるなど工夫している。個別外出等の希望にも対応している。煙草は戸外で喫煙してもらっている。これらの点は介護計画に反映され、共有できることが大切である。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人が楽しみ充実した自分らしい暮らしが送れるようにグループホーム内での暮らしやケアのあり方について、本人・家族・介護職で担当者会議で検討し、本人の負担にならないように具体的な計画を作成している。今後は更にかかりつけ医や往診に見える医師または看護師のコメントもあると尚、総合的な介護計画になると考えられる。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間中、対応できない変化が生じた場合は即、本人・家族・介護職・ケアマネジャーを含めた担当者会議を開き、現状に即した計画を作成している。頻繁に担当者会議が開催され、記録が詳細に書かれており、全職員の情報の共有化が図られている。</p>		
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の状況や都合、その時々要望をグループホーム内で出来る範囲の中で機能性を活かして支援している。生家・家族の住居・思い出の場所への同行・個人的な外食同行等に柔軟に対応している。職員が足りない時は管理者等が即対応に当たっている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人と家族の希望により、これまでのかかりつけの病院とホームとの信頼関係を築きながら、適切な治療が受けられるように取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	早い段階から本人や家族と話し合い、また、かかりつけ医や看護師と連携を組みながら、職員全員で重度化末期から終末期の看取りを行った経験がある。介護職員からも、大変ではあったが入居者の最期まで、関わらせていただいたという言葉があり、「看取り」の重要性を職員全員で共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	言葉使いや記録内容に、家族が聞いたり見たら悲しくなるような事があった際には、直ちに会議の議題とし話し合うようにしており、入居者のプライバシーを尊重した対応が出来るように努めている。書類や記録は管理・保管を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりの生活パターンを大切にし、その日の体調や希望に応じて一日を快適に楽しく過ごしていただけるように取り組んでいる。食事時間も皆一緒に同じではなく幅を持たせている。希望によっては遺跡見学や買い物への対応等、日々の暮らしが生きがいあるものになるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	月に一度 クッキングを行っている。入居者一人ひとりが役割を持ち、職員と一緒に準備や片づけをしている。調査の訪問当日は真剣に女性の入居者がおいなりを作られていた。またお芋も丁寧に調理されていた。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的には、いつでも入浴を楽しんでいただきたいが、入浴の曜日や時間帯を決め、共同スペースに提示している。入居者の状態や希望に応じて取り組んでいる。定例の会議でも、入浴時間の変更が議題として挙がっていた。入居者の状況を考慮しながら一方的な取り決めにならないように努力されている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	洗濯物たみ・畑作業・お花を活ける等、入居者各自の役割がある。また、楽しみごととして、レクリエーション・散歩・外出等で気分転換や季節を感じていただけるように取り組んでいる。入居者と共に過ごす職員が交代で、入居者の好みを反映したレクリエーション計画を立てている。(例えば外食・百貨の買い物等)		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者や家族の希望・入居者の体調に応じて外出支援を行っている。目が不自由な方には職員が同行している。携帯酸素が必要な方も準備を整え外出支援を行っている。また不意に外に出かけられる時も納得されるまで外出に職員が同行している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や玄関に鍵をかける弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。中には本人の希望でプライバシーを尊重し、外出時に居室に鍵をかける事もある。玄関は鍵はかけていないが、センサーで人の出入りがわかる。入居者が出かけられると、引き止めず、まず職員がついて出るようにしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	災害対策として年2回避難訓練を実施している。昼間については避難方法が確認されているが、夜間は出来ていない。また、地域の人々の協力体制が今後の課題となっている。		年2回の自主的な訓練がされている。加えて消防署や自治消防団との連携した訓練をする計画も必要である。運営推進会議で災害対策について議題として取り上げ、地域の協力をお願いするなど検討が望まれる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事のバランスや水分摂取量について、各自の状態や習慣に応じて、一日の必要量が確保できる取り組みをしている。入居者一人ひとりの食量や水分の摂取量の記録により、きちんと管理されている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有スペースは自然の採光を取り入れ視界が広く、遠くの山や田園風景が楽しめる。木造建築のため、懐かしい居室や廊下となっている。換気や清潔に気を配られ不快な臭いもない。また、共有スペースには畳みのコーナーもあり、ゆっくりとくつろげる空間となっている。食堂・調理室も一つとなっており、どこにいても調理中の職員がみえ、その調理の音や香りから生活感を感じる事が出来る。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	本人や家族が相談して、タンスや椅子・テレビ等使い慣れた物を置き、入居者が使いやすく、居心地が良い空間となっている。ベッドも入居者の状態に合わせて使用している。それぞれ個性ある居室で、個人的に購入した好みの物をたくさん飾られた居室もあった。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			